



令和3年度 表彰状伝達式 産業功労者に安房毅氏、長谷川健氏

令和3年度の公益社団法人米沢有為会の表彰状伝達式が6月27日(日)、午後4時からホテルモントビュー米沢で行われました。今年度は2個人に産業功労賞、3団体・2個人に特別賞が中川勝支部長より伝達されました。なお、教育文化功労者は該当者がいませんでした。詳細は次のとおりです。学校・学年は令和2年度のもです。

- ☆産業功労者：安房毅氏（㈱タカハタ電子会長）、長谷川健氏（元フジクラ電装㈱特別顧問）
- ☆スポーツ活動（3人制バスケットボール）優秀賞：るーきーず（米沢中央高等学校3年4名）
- ☆文化活動（ビジネスアイデア）優秀賞：うめちゃんず（長井工業高等学校3年5名）
（お米甲子園）優秀賞：置賜農業高等学校生物生産科3学年（3名）
- ☆文化活動（作文）奨励賞：丹野陽斗（たんのはると）（長井市立平野小学校3年）
奨励賞：情野凜々（せいのりり）（米沢市立万世小学校5年）

＜支部総会＞ これに先立ち午後3時から支部総会が開催され、①令和2年度庶務報告及び決算報告、②役員改選、③令和3年度事業計画(案)及び予算(案)、④我妻榮記念館の事業報告及び決算報告並びに事業計画(案)及び予算(案)の4案共に承認されました。

なお、役員改選により、支部長に中川勝氏、副支部長には種村信次氏・本多和彦氏の退任を受けて伊藤和夫氏・佐藤知由氏、理事には鈴木幸一氏の後を受けて横井博氏、矢尾板操氏が就任しました。



第 42 号

令和 3 年 10 月 1 日

発行者

(公社)米沢有為会米沢支部

支部長 中川 勝

米沢市金池5-2-25

☎ 0238-22-5111

高校生小論文コンテストの可能性

有為会米沢支部
副支部長

横井

博

ひろし

この6月より副支部長を務めることになりました横井博です。よろしく
お願いいたします。

私は、まだ仙台市に電車が走っていた50余年前に仙台興譲館寮に入寮してお世話になり、同時に米沢有為会奨励学生でもありました。有為会とはこのようなご縁がありますが、仙台興譲館寮の思い出は今でも鮮明なものであり、印象深い寮生活を送っていたことだと思えます。一言でいえば、青春時代のカルチャーショック（田舎者文化吸収過程）です。コンパ、猥歌、麻雀、合ハイ、3人部屋、本音付合い等々多くの先輩後輩と寝食を共にして精神が鍛えられた良き寮生活でした。

然るべき時期に然るべき体験をし、心的・知的な能力を強化することは大変重要なことです。現在の学生は、コロナ禍にあつてリモート授業に代表されるような生活を送っています。青春の自粛と言われていますが、可哀そうだというよりは、深刻なダメージを受ける環境にあると言わざるを得ません。寮生活により自粛ではなく謳歌の方向に少しでも動くように祈念しています。

さて、有為会では文化振興部長も拝命し新参者として研鑽中です。当部の主たる事業の一つに「高校生小論文コンテスト」があります。今年で第4回を数えるに至り、「人口減少社会の中でも生き生きと持続していく地域とするために」をテーマに、置賜管内の高校生から小論文を募集しました。高校生にとってこの難問のコンテストを新参者の視点で捉えると、それは大変優れた取組（グッドプラクティス）と言えます。一つは、高校生に人口減少社会という地域課題の考察を求めていることです。地域を総合的に捉えてみようという試みと、彼らの世界観形成の基礎がそこには内在しています。また、最適解の思考方法に高校生がチャレンジしていることです。高校時代は多くの場合正解が求められますが、社会では最適解が主流です。その思考形成の緒に就いてほしいという狙いがあります。さらに、有為会という法人目的である人材育成の事業幅を広げることや、有為会の知名度を高めようとするのがそこにはあります。

それでは、このコンテストはどのように着地すれば良いのでしょうか。この課題は重要です。その解決のために、必要性の検証やコンテストの達成状況等を見極めながら、さらには会員の皆様のお知恵を是非お借りしながら、取り組んで参りたいと考えています。

まちの話題

米沢の新しい文化事業

平成31年3月末に閉校した旧南原中学校校舎をリノベーションし、令和3年度から新たに使用を開始した芸術創作活動施設「芸術の杜」は、地域の文化活動の推進と地域活性化を目的とした新しい施設です。

この施設での活動の目的は、
①様々な芸術家等を本市に呼び込み、交流人口や関係人口の増加を図るなど、芸術文化活動を切り口にした地域活性化を目指す。



②南原地区を中心に本市の新たな芸術文化の発信拠点の形成を目指し、本市の芸術文化の新たな展開を促す。

③若手芸術家の育成とともに芸術文化活動の活性化を図る。
と3点掲げています。

また、令和4年春には、旧南原中学校グラウンドに新南原コミュニティセンターが開館予定です。で、コミセン事業と連携した文化芸術活動を定着させていきたいと考えています。

南原地区には、あまり知られていないのですが、様々な分野の芸術活動をされている方がたくさんいます。また、その活動のために、移住して来られた方もいます。

また、「芸術の杜」の一部を日本画で有名な福王寺一彦氏に貸出しており、本市での創作活動の拠点として利用されていますので、今後はいろいろな場面で、地域とのつながりを持つていただくことで、さらにこの地区での芸術活動が活発になることを期待しています。

令和3年度の最初の事業として、先日、「ミナミハラアートウォーク（R3・8・21～8・29）」を開催いたしました。主催は米沢青年会議所で60周年事業として企



画されたものですが、事業内容と目指す方向が同じであったことから、米沢市教育委員会が共催となり「芸術の杜」の初めての事業を行ったところ です。

「芸術の杜」を始め、南原コミセン、各地域集会施設、寺院を会場に南原地区で創作活動をされている方々の作品を展示し、巡ってもらえるのですが、地域の方々だけでなく市内各所から来場者があり、初めての企画でしたが大成功を収めることができました。また、作品展示等にご協力いただいた作家の方々同士のつながりも、さらに活発になったものと思っています。

この「芸術の杜」事業は始まったばかりですが、米沢市では文化芸術に親しむ機会の充実と、市民が心豊かに生活できる環境整備の推進に努めていきたいと考えています。

（米沢市教育委員会）

新しく会員になられた方々

氏名	会員区分
今野 莉妃	個人賛助会員
酒井 次生	個人賛助会員
齋藤 秀志	個人賛助会員
齋藤 和浩	個人賛助会員
遠藤 淳一	個人賛助会員
猪又 義則	個人賛助会員
阿部 新吾	個人賛助会員
原田 章子	個人賛助会員
小関 薫	個人賛助会員
高橋 芳和	個人賛助会員
大西 文雄	個人賛助会員
佐々木 文雄	個人賛助会員
田中 歌乃	個人賛助会員
下平 健三郎	個人賛助会員
齋藤 明子	正会員
吉田 健	個人賛助会員
酒井 孝	正会員
上浦 勤	個人賛助会員
青柳 敦子	個人賛助会員
井家 勝己	個人賛助会員
伊藤 広幸	個人賛助会員
米野 和徳	個人賛助会員

リレー随想 ②1

広瀬川の夏草



山形大学大学院 学生
半田和彦
はん だ かず ひこ

仙台興譲館寮への入寮は昭和53年。当時の寮は、角五郎一丁目にありました。酔漢が時折移動させるといふ風説もあったバス停から東へ下り、コンチエルトという軽食喫茶店の角を北に曲がると寮が見えてくる。あの家並みや路地は、今もすぐに懐かしく心に浮かべることが出来ます。

経済的に余裕がなかった私にとって、寮の存在は大変ありがたいものでした。米沢有為会の奨学金の貸与も受け、さらには、受験の時も興譲館寮に臨泊（と当時言っていたような気がします）させていただきました。無用な気遣いのない家庭的な雰囲気、無用な緊張せずに受験に臨むことが出来ました。有為会には入学前から卒業まで人一倍お世話になっていたのだなあと、この機会に改めて噛み締めています。

寮生活では、「男性からの電話は『電話です』、女性からの電話は『お

電話です』と館内放送で使い分けるように」と、まことしやかなレクチャーがあり、素直にそうしていました。今となればささやかで、とるに足らないこと、でも忘れられない思い出です。寮生活で得たことを即座に答えることはこの年になっても難しいですが、常に人を間にはさんだ、どこか人間臭い思い出やほろ苦い経験がたくさんできたことが財産になったように思います。卒業後、公民館職員や教員という対人職に就いた自分にとって、それでよかった。いや、それが良かったと思っっています。退職後の今は、六十の手習いで対人援助の学び直し（臨床心理学）をしています。

一昨年の夏、還暦を機に大学の同期が仙台に集まった折に、久しぶりに角五郎一丁目のバス停に降りてみました。もちろん、建物はありません。周囲の面影も大分変わっていました。踵を返して坂を下り、広瀬川の河川敷に出ると、時間が止まっていたかのような夏草が茂る風景が目に入り、足元が揺らめくような思いがしました。

結びに、厳しい世相ですが、現在の寮生皆様の健やかな生活と米沢有為会の発展を心よりご祈念いたします。



寮母さんと玄関で

～ 活躍する会員紹介 ～ ②3

社会福祉法人 米沢市社会福祉協議会
常務理事兼事務局長

かのりお
菅野紀生 さん



Q 1. 米沢市社会福祉協議会の役割をお聞かせください。

A 1. 社会福祉協議会（社協）は、社会福祉法に基づき設置されている非営利の民間組織で、地域の福祉推進の中核としての役割を担っています。

米沢市社協では、「市民の福祉意識向上」と「お互いに助け合い、支え合う地域づくり」を取組の柱として、地域住民や社会福祉関係者の参加・協力により、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりのための活動を行っています。

Q 2. 米沢市内17支部の取組についてお聞かせください。

A 2. 市内17地区に支部社協を設置し、支部ごとに地域福祉活動指針となる福祉8策を作成しています。各々の地区で抽出した地域課題に対して、福祉8策で示した具体的な解決策に、地域住民が主体となって取り組むなど、事業を組織的に展開しています。

これらの取組は、地域福祉の課題である住民同士のつながりの維持・強化にも役立っています。

Q 3. 令和3年～4年度の福祉行政の課題についてお聞かせください。

A 3. 人口減少、少子高齢社会の進展や新型コロナウイルスの影響等を受け、支え合う地域づくりの重要性が増している中で、次の3点が課題として挙げられます。

1 点目は「住民同士のつながりの強化」。

2 点目は「生活困窮者等への生活自立支援」。

3 点目は「権利擁護センターの充実強化」です。

いずれも、一朝一夕での解決が難しい課題ですが、支部社協の皆さんや関係団体・機関等と連携を図りながら、地域福祉の推進に向け、着実に取り組んでいきたいと考えています。

Q 4. 今後の抱負をお聞かせください。

A 4. 「福祉」とは、自分のことだけでなく、周りの人を大切に思い、一人ひとりそれぞれの人の考え方、生き方を尊重し、「ともに生きる力」を培うこと、と言われてしています。この理念の下に、米沢市社協が一丸となって、地域福祉の課題解決に取り組むことができるように、微力ではありますが励みたいと思っています。

ありがとうございました。今後ますますのご活躍をご期待申し上げます。

米沢有為会米沢支部だより

米沢有為会を
支援します

(株)エービーエム
代表取締役会長
吉野 徹
よし の とおる

当社は昭和43年9月に株式会社オー
ルビルマネジメントとして米沢市成島
町で創業し、総合ビル管理業（設備管
理・清掃・警備）として置賜地域を中
心に事業展開しております。平成3年
8月に社屋を現在地の窪田町に移転を
機に株式会社エービーエムに改称いた
しました。主に米沢市役所を始めとし
る官公庁での建物管理を行っており、
また、平成18年度から米沢市市民文化
会館の指定管理業務を開始し、以降、
米沢市内4か所、南陽市内1か所の指
定管理を行っています。平成28年度か
ら環境マネジメントシステム「エコア
クシオン21」に取組み、環境経営をス
タートし、関連企業であるエービーエ
ム・エナジー合同会社では太陽光発電
による再生可能エネルギー事業も行っ
ております。

誰もが長く働ける職場づくりを目指
して「やまがた健康企業宣言」のもと
社員の健康管理を進めており、今年度
は「健康経営優良法人」にも選ばれま
した。

当社の経営理念は「お客様感動」で
す。建物管理を通してお客様に最大限
の満足と感動をお届けできるよう、安

全・安心、清潔に関する最良の技術と
サービスを提供し、地域社会にお役に
立てるよう今後とも努力してまいりま
す。

さて、昨年浅学菲才の私が米沢有為
会産業功労賞の栄に浴しましたことは
誠に恐縮に存じ、誌上をお借りして心
より御礼申し上げます。米沢商工会議
所副会頭3期9年、会頭として2期6
年商工会議所の事業・運営に携わら
せていただきました。それらの事業が実
を結び、米沢栄養大学の開学、東北中
央自動車道米沢北IC、大笹生IC間
の開通、道の駅米沢の開業などの歴史
的瞬間に立ち会うことができましたこ
とは、一生心に残る思い出であります。
今後とも何らかの形で地域に貢献でき
ればと考えています。

人口減少が社会問題化して久しくな
ります。中でも当地域では新卒の若者
流出が大きな要因となっています。そ
のような中、数年前「高校生小論文コ
ンテスト」の応募作品を拝見する機会
がありました。応募者のあふれる地域
愛が感じられる
作品が多数寄せ
られていました。

米沢有為会様の
時宜を得た事業
が功を奏し、若
者が地域に関心
を持ち、地域に
定着・イターン・
Uターンの促進
につながればと
願うばかりです。

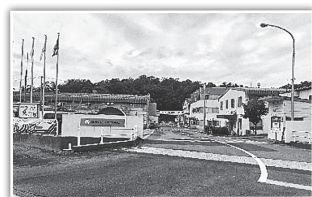


浜理PFST(株)
代表取締役社長
森 千春
もり ち はる

米沢支部会員の皆様、初めまして。
浜理PFST株式会社と申します。旧
社名の米沢浜理薬品工業に馴染みのあ
る方が多いと存じますが、弊社はこの
7月16日、研究開発力と生産技術力、
並びに品質管理力の強化を図り、社業
の更なる発展を目指すため、兄弟会社
のチトセ浜理薬品と合併統合しまし
た。ここ米沢では浜理PFST米沢工
場として新たな船出をいたしました。
会員の皆様におかれましては、引き続
きご愛顧を賜りますようお願い申し上
げます。

初めに、弊社の事業内容についてご
紹介いたします。医薬品の薬効成分そ
のものである医薬品原薬の製造を主と
しており、生命科学の担い手として
人々の健康と幸福に奉仕することを目
指しております。他にも食品添加物や
化粧品素材等も製造しており、弊社
が提供するPharmaceutical（医薬）、
Food（食品）に加え、Service（サー
ビス）、Technology（技術）の頭文字
PFSTを社名に採用して事業を展開
しております。

弊社を含む浜理グループは業界の中
でもユニークな存在で、原薬メーカー
では珍しく新薬の開発に成功し承認薬
を有しております。また、最新技術の
応用にも着手し、フロー合成での薬理
化合物の製造に挑戦しています。更



に、以前から得意分野としてきたペ
チドについては、国内の有力企業が集
結し事業展開するところへ参画してい
ます。自社開発したテラーメイドア
ミノ酸合成技術をもつて生命科学の発
展に貢献することを目指しています。

米沢での事業が40余年継続できま
したのも、地元から優秀な人財を採用す
ることが出来たことも大きな要因で
す。貴会の益々の発展により継続して
人財輩出が叶うよう置賜地方の奨学育
英と、産業・文化振興が充実しますこ
とを切に願っております。今後とも地
域産業振興の一助になるよう尽力して
まいりますのでご指導ご鞭撻をお願い
申し上げます。

編集後記

★この夏日本列島は猛暑と豪雨に見舞わ
れ、今なお変異株により拡大し続けるコ
ロナ禍の中、有為会本部の理事会・定時
総会等がZoom会議により行われる一
方で、米沢支部総会は2年ぶりに対面式
で開催されました。今年度産業功労賞・
特別賞を受賞された皆様、誠におめでと
うございます。

(手)